

## 授業づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 学習過程における指導の工夫が教科の担当者任せになっており、共通実践できる手立てがない。
- 授業づくりについて、教科の枠を越えた協議ができず、交流する場での議論の深まりがない。

### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～「授業のグランドデザイン」を軸として進める授業実践の日常化～

### 指導の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### ◀取組1▶全教科で統一した1単位時間の学習過程

##### 「授業のグランドデザイン」の作成

- ◇ 日常的な授業改善を進めるために、「めあて-見通し-思考活動-まとめ-振り返り」を位置付けた1単位時間の5つの学習過程と、各過程の留意点を示した「授業のグランドデザイン」を作成し、校内研修を通して共通理解を図り、共通実践につなげた。

#### (取組1の成果)

- 授業研修において、授業づくりについて教科の枠を越えて協議を行う姿が見られるようになった。各教科で授業のグランドデザインを意識した実践が見られるようになった。

#### ◀取組2▶思考活動の充実

- ◇ 問題解決に向けて生徒の気づきを促すために、生徒が思考、表現することができるように思考方法、手立て、発問等をセットにした活動を展開段階に位置付けた。

#### (取組2の成果)

- 各教科において、生徒主体の学習活動を意識した授業づくりを心掛けるようになった。

#### ◀取組3▶異教科グループでの授業研修

- ◇ 教科の枠を越えた授業交流を行うために、研究推進委員会の教員を中心に据え、経験年数等を考慮した異教科グループを編成した。また、授業研修では、生徒の参加・集中の変化から教師の指導・支援の効果を協議するために、授業参観シートと授業チェックリストを活用し、レーダーチャートの変容による授業(一人年間2実践)の見取りを行った。

#### (取組3の成果)

- 授業実践の交流が日常化しつつある。生徒の姿を中心とした協議を行うことができ、他教科での手立ての工夫を自分の教科の授業づくりのヒントとして生かすことができた。

山田中学校 授業のグランドデザイン～1単位時間の学習過程～

学習のながれ	ポイント・留意点
<b>「めあて」をつくる</b> [1] 疑問からの「めあて」 [2] 振り返りからの「めあて」 ※「今日のめあては○です」からの視座の意識を！	<b>「めあて」の要素</b> ①「何を」「どうして」「どうするの?」(最終課題) ②「何を」「どうして」「どうするの?」(最終課題) ③「何を」「どうして」「どうするの?」(最終課題)
<b>「見通し」をもつ</b> ※「今日のめあては○です」からの視座の意識を！	例に準拠してどのように学習のめあてを達成するかが「めあて」ではなく、 ① 自己発問の発問 ② 学習者の発問など ③ 例に「どのようにして」とすれば、～に準拠して

#### 【授業のグランドデザインの一部】

思考活動 頭の中をぐるぐる回す時間  
 【基本スタイル】

資料活用型 + 教材工夫型 + 中心となる発問 + 交流活動

考えを可視化・操作化する手立て

- ICT機器
- 思考ツール
- KJ法
- ホワイトボード
- 付箋を用いて
- 学習プリントなど

#### 【思考活動の内容】



### ■ 授業づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- 授業のグランドデザインは全教員に定着していることから、学習過程1つ1つの活動の質の向上を目指した実践の積み重ねと教員同士の交流の機会を増やしていく必要がある。
- ◇ 「書く活動」と関連付けた思考活動をさらに充実させるために、「学習でどのような生徒の姿を目指すのか」や「どのような学習活動や手立てが有効なのか」を、より具体的に考えられる研修を設定する。

## 組織づくり

### ■ これまでの取組における課題

- 学力向上プランに基づく検証改善サイクルを意識した取組がなされていない。
- 学力四分位層C、D層への支援が個々の教員による工夫のみになっている。

### 【課題解決に向けた取組テーマ】

～検証改善サイクルに基づく授業改善と学力基盤づくり～

### 取組の実際(以下の取組が効果的だった!!)

#### ◀取組1▶検証改善サイクルの確立

- ◇ 学力向上プランの計画的な実践のために、校内研修を主にP、C段階に位置付けた。特に、C段階における取組の振り返りを確実にを行った。

#### (取組1の成果)

- 授業改善に向けた成果と課題が明確になり、改善の方向性が具体化された。



#### ◀取組2▶授業評価アンケート分析シートの作成

- ◇ 自分の授業を見直し、改善につなげるために5つの学習過程に沿って分析できるシートを作成し、定期考査までの期間を1サイクルとして、授業を振り返る取組を行った。定期考査後に授業評価アンケートを実施し、分析結果を改善につなげた。

#### (取組2の成果)

- 教員個々が自分の変容を実感するとともに、シートを職員室内に掲示したことで、授業づくりの成果と課題、効果のあった取組を共有することができた。

令和3年度 授業評価アンケート分析シート 2年 理科

1学期 2学期

めあてを設定する

見通しをもつ

思考活動

まとめをする

振り返りをする

【授業評価アンケート分析シート】

#### ◀取組3▶全教員による学力四分位層C、D層への支援

- ◇ 学力層に合わせた学習支援を行うために、数学に絞って定期考査前に習熟度別補充学習を実施した。
- ◇ 定期考査前の期間を中心にマンツーマン方式で自学ノートを活用した家庭学習の支援を行った。

#### (取組3の成果)

- 全教員で教育相談を行いながら、抽出したC、D層の支援に取り組むことができた。

ステップ1 教育相談の時間をとる。

心算ポイント  
 全教員で教育相談を行いながら、抽出したC、D層の支援に取り組むことができた。

ステップ2 「自尊のめあて」を一緒に決め、取り組む内容を明確にする。

心算ポイント  
 「自尊のめあて」ということで、生徒が「自分」で取り組むことができるように、取り組む内容を明確にする。

ステップ3 「振り返り」を促す。次の日の教育相談で確認し、評価する。

心算ポイント  
 「振り返り」を促すことで、生徒が「自分」で取り組むことができるように、取り組む内容を明確にする。

【全教員で確認した指導のポイント】

### ■ 組織づくりの取組における課題(●)、及び次年度の方向性(◇)

- マンツーマン方式での支援は、生徒の意欲の向上は見られたが、成績向上への成果に十分つながったとは言えず、今後、調査・分析する必要がある。
- ◇ 自学ノートを活用した家庭学習、補充学習等が連動した取組の展開を検討する。補充学習においては、実施時期や期間、方法の見直しを行う。